



目指せ、大河ドラマ「立花宗茂と閻千代」

長洲町は、閻千代姫のお墓(ぼたもちさん)がある立花家ゆかりの地であることから、柳川市と連携しPRに取り組んでいます。
(広報ながす全6回連載 提供：柳川市)

●問 まちづくり課 商工観光係 (☎78-3219)

最終話

再封後の宗茂と晩年の活躍

柳川に大名として復活した宗茂

元和6(1620)年、旧領柳川に復活を遂げた宗茂は、10万9千石余の領地を与えられました。そのため、奥州南郷での家臣に加え、これまで肥後の加藤家のもとにいた旧家臣たちを呼び寄せたり新規の召し抱えを加えたりし、家格にふさわしい体制を整えてゆきます。柳川藩の江戸屋敷の普請や、江戸城の城郭普請への動員、將軍の供をして上洛(京都に上ること)するなど、忙しく過ぎることになります。また、徳川秀忠、家光の御成(將軍の外出)の供も多く、江戸を離れることがなかなか出来ない状況であったようです。

72歳まで現役 「軍神再来」

新しい体制を整えてゆく多忙な日々の中、元和8年12月27日、実弟直次の四男として生まれ、直後に宗茂の養子となっていた忠茂が二代将

軍秀忠の御前で元服をします。寛永6(1629)年、63歳となった宗茂は下屋敷へ転居し、内々に隠居の準備と忠茂への権限移譲を進めてゆくのですが、將軍からは正式に隠居の許しを得ることができず、これまでも以上に秀忠、そして三代將軍家光からも重用され、側近く仕えることになりました。

この頃の様子を忠茂に宛てた書状に自ら次のように語っています。

「…つねづねかように其の日ほど出頭仕り候は、国の五カ国三カ国も取り候程の様子にて候つる、おかしく候、(中略)：猶以て毎日罷り出、隙無く草臥候事推量有るべく候」(特別な酒宴の席に臨席できたのは、国の五カ国三カ国も取ったような榮譽を感じています：なおも毎日將軍にお供し、休む暇もなく疲れていることにご推察ください)

忠茂に対し、どこか誇らしげな宗茂の様子に、ほほ笑ましささえ感じます。



招致委員会
公式サイト

寛永15年2月6日、宗茂は、前年より勃発した天草・島原の乱鎮庄に苦戦する幕府軍の原城総攻撃に参陣するため満を持して着陣。この時72歳でした。往年の勇將の面目躍如だったのでしょうか。「軍神再来」とささやかれたというエピソードが伝わっています。

宗茂がようやく隠居生活へ 波乱万丈の人生は76歳で閉幕

同年10月20日、宗茂は正式に隠居を許され、「立花立齋」と号します。その翌年、年を重ねる宗茂の体調を気遣う家光から、風邪をひかぬよう、転ばぬようと紅裏烏巾(黒頭巾)と紫竹の杖を賜りますが、これを名譽なこととその姿を肖像画にしたものが、宗茂の晩年の姿を伝える貴重な資料として伝わっています。

寛永19年11月25日夕方、宗茂は多くの人々に惜しまれつつ江戸にて他界。享年76歳でした。

今年で10年目を迎える大河ドラマ招致活動

宗茂と閻千代の生涯や、二人を取り巻く人物とのエピソードを全6回の連載で紹介しました。読んでいただいたことで「もし大河ドラマが実現したら」と想像し、楽しみに思っていただけると幸いです。

「立花宗茂と閻千代NHK大河ドラマ招致活動」は、今年で10年目を迎えました。柳川市は、招致実現という大願成就のため、一步一步、粘り強い招致活動を継続すること、地域の盛り上がり、大河ドラマへの機運の醸成を図っていきます。



出典：「東京と福岡(東京福岡県人会)、令和6年4月～9月」に連載された文章をもとに再構成したもの